

令和4年度 福井県立南越特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部テーマの下、子どもたちに育てたい力をどう引き出していかを、子どもたちの変容を丁寧に見取りながら進めていくとともに、対象とする授業全体のねらいをより明確にしていく。 ・各授業グループに1名の外部講師を迎えて、指導助言を受けながら授業研究の充実と専門性の向上を図る。 	<p>各学部とも研究対象授業が3カ年計画の2年目である(小学部低学年・高学年は体育、中学部は作業学習、高等部は自立活動)。子どもたちの変容を見取る手段として、小学部は「目標評価シート」、中学部は「コミュニケーションサンプル」を活用した。また、高等部は、生徒が使用するワークシート等を工夫し、そこから生徒の実態把握や変容の見取りに繋げた。そして、それらを、個々や授業のねらいに反映させていくことができたと評価する教員が9割以上であった。各学部3回ずつ、外部講師を交えた研究会を実施した。また、各1回は授業を直接参観していただいてから研究会を行った。講師からの助言により、研究の方向性が整理されたり、子どもたちの見方や変容の見取り方を学んだり、指導内容や支援の意味づけを行ったりすることができた。</p>	<p>次年度は研究対象授業の3年目であり、最終年次である。2年間の成果を引き継いでより深めるとともに、対象とする授業についての授業づくりのPDCAや大切にしていきたいことなどを分かりやすく整理できるとよい。また、今年度、外部講師に研究会に参加していただくことで、授業研究が充実した。次年度も引き続き研究協力を依頼する。</p>
生活支援・安全支援	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣の形成を目指す歯・口の健康づくりに取り組む(2年次)。 ・歯科検診や教職員研修を実施し、むし歯や歯周病の予防方法の理解と実践、食べる機能や食べ方の発達支援を通じての実践的な歯・口の健康づくりを家庭と情報共有しながら取り組む。 	<p>歯科検診や教職員研修会、保健委員会の活動等、たくさんの方の協力をいただいて取り組みを実施することができた。摂食指導研修は、個別に事例検討を行う形で実施した。夏季休業中に、各家庭に染め出し薬を、冬季休業前には、歯ブラシを持ち帰ってもらい、家庭での歯磨き習慣形成を促した。保護者評価には、歯磨きが習慣づいたとあった。</p>	<p>歯科検診や教職員研修会は、望ましい生活習慣の形成のため今後も継続していきたい。摂食指導研修については、希望する教員がいれば、今後も実施していきたい。今年度で歯と口の健康づくりの取り組みは終了するが、引き続き、児童生徒の健康づくりのため、各家庭へ啓発し、学校、家庭で協力して取り組みたい。</p>
進路支援・生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会の開催や、学級懇談での進路相談、進路だより、福祉サービス事業所一覧の発行を通じて、児童生徒、保護者、教職員に情報を提供する。 ・行政との連絡会を開催し、卒後のサービス利用の見込みや在学時からの支援の必要性などについて情報を共有する。 	<p>多くの保護者が参加しやすいようにPTA総会に合わせて進路説明会を開催し、全学部の保護者の参加を得た。また、今年度は新たに、小学部の学習発表会、高等部の文化祭で、それぞれの学部の保護者を対象に説明会を開いた。進路について気かりな児童生徒について市町の福祉課や支援機関とケース会議を開き、どのように連携して支援して行くか相談することができた。</p>	<p>今年度は、新たに小学部、高等部の保護者向けに進路説明会を開催できた。来年度以降は、学部ごとの進路説明会を継続しながら。それぞれの学部の保護者が関心を持っていること、学校から伝えておくこととよいことを精選し、より充実したものにしていけるとよい。近年開催できていない何でも相談会を関係機関に協力を仰ぐなどしながら、再開することができないか検討していく。</p>

<p>地域支援</p>	<p>・クラスやグループ、学部会等で事前、事後に話し合う機会を設け、目標を共通理解したり、成果や課題を整理したりして、活動の充実に努める。</p>	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況や予防対策の変化を見極めながら、直接交流を再開することができた。交流の機会に限られる中、校内での話し合いや相手先との丁寧な打ち合わせをとおして、状況の変化に応じて柔軟に対応できるように準備を進めたことで、貴重な機会を無駄にすることなく、次年度につながる交流を実施することができた。また、中学部の一部の生徒が近隣の園に作業製品を届けたり、高等部の地域での活動を交流の視点でとらえ直したりするなど、新たな視点で地域への発信に取り組んだ。近隣の高等学校との学校間交流も数年ぶりに再開し、今後どのように深めていくかを検討している。</p>	<p>コロナ禍で直接的な交流の場が減っているが、作業学習など日ごろの学習活動に、オンライン交流や作品紹介、小グループでの校外活動などの方法を取り入れ、無理のない形で近隣の地域とのつながりづくりを検討していく。また、今後も交流学習を継続するため、児童数の増加にともない居住地校交流当日に校内が手薄になるといった課題への対応策を考える。</p>
<p>組織運営</p>	<p>・会議等の活性化を図り、業務改善の実行や専門性の向上を目指す。 ・タイムマネジメントやタスクマネジメントに関する工夫をおこない、効率化と協力体制の充実に努める。</p>	<p>学部や校務部において、ねらいを明確にして前例にとらわれることなく、新しい形で教育活動等を企画運営する場面がみられた。研修では、グループ討議が多く用いられ、学びを深め合う場面も多く見られた。また、勤務時間を意識して優先順位をつけて仕事を進めたり、役割分担をして進める際に、自分以外の仕事にも目を向けたり声をかけたりする場面が見られた。</p>	<p>会議の活性化については取組を継続し、安心して自分の考えを述べたり、他の人の意見を肯定的に受け入れられたりしながら、アイデア実現に向けて協力して取組むための工夫が必要である。話し合いの進め方や実効性の高い組織運営について経験や学びを深めていきたい。そのことにより、同僚性が高まり、またその高まりをお互いが実感することで、業務改善や働き方改革が進むことが期待できる。</p>